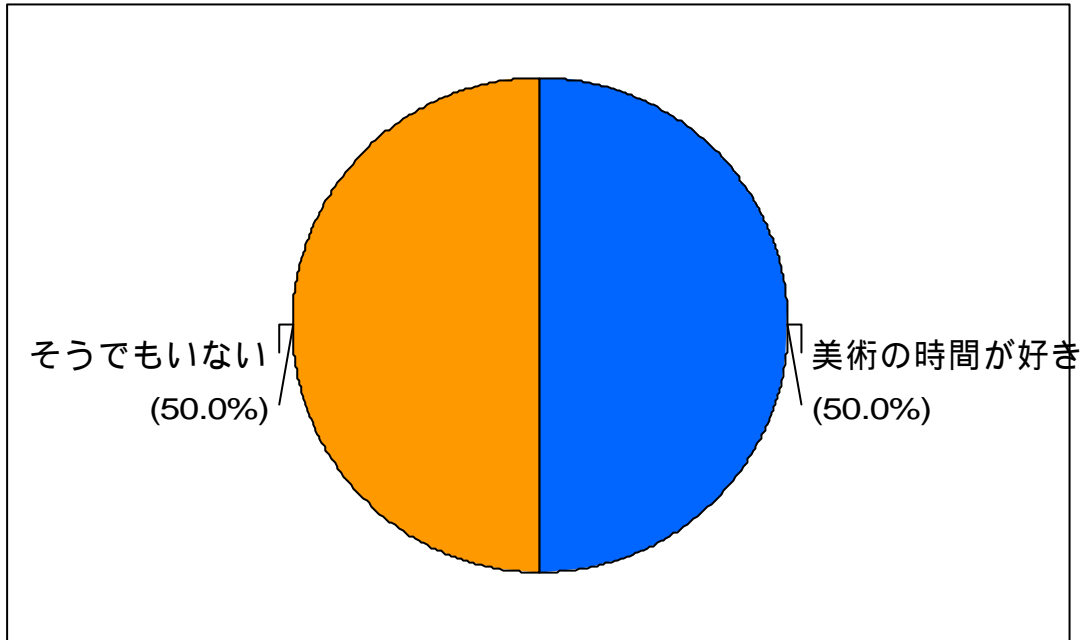
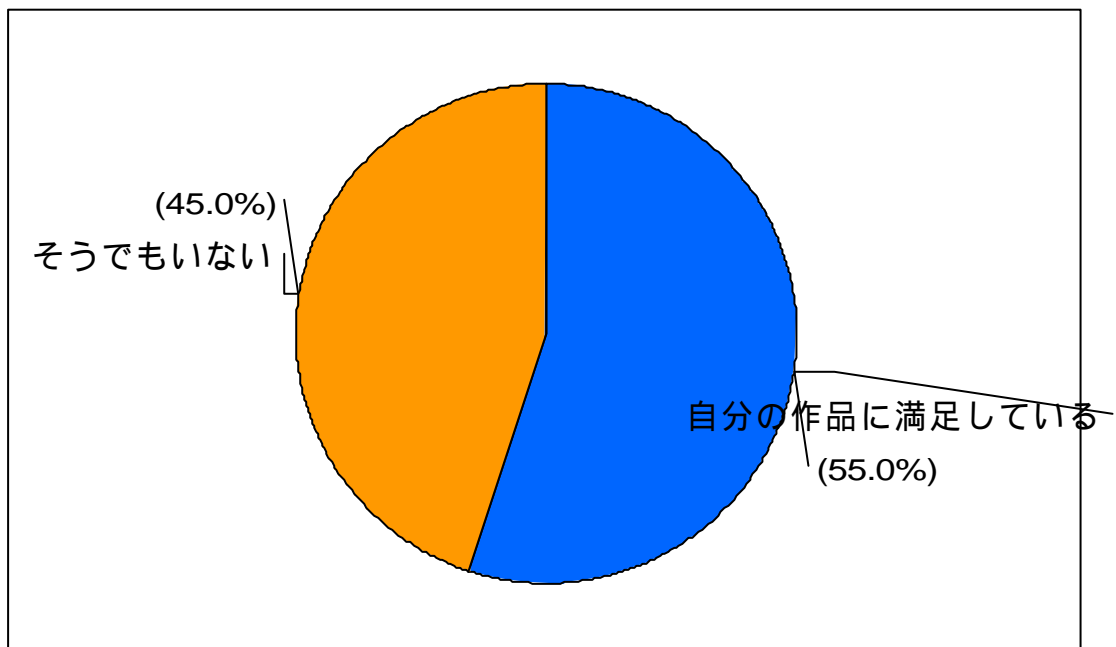


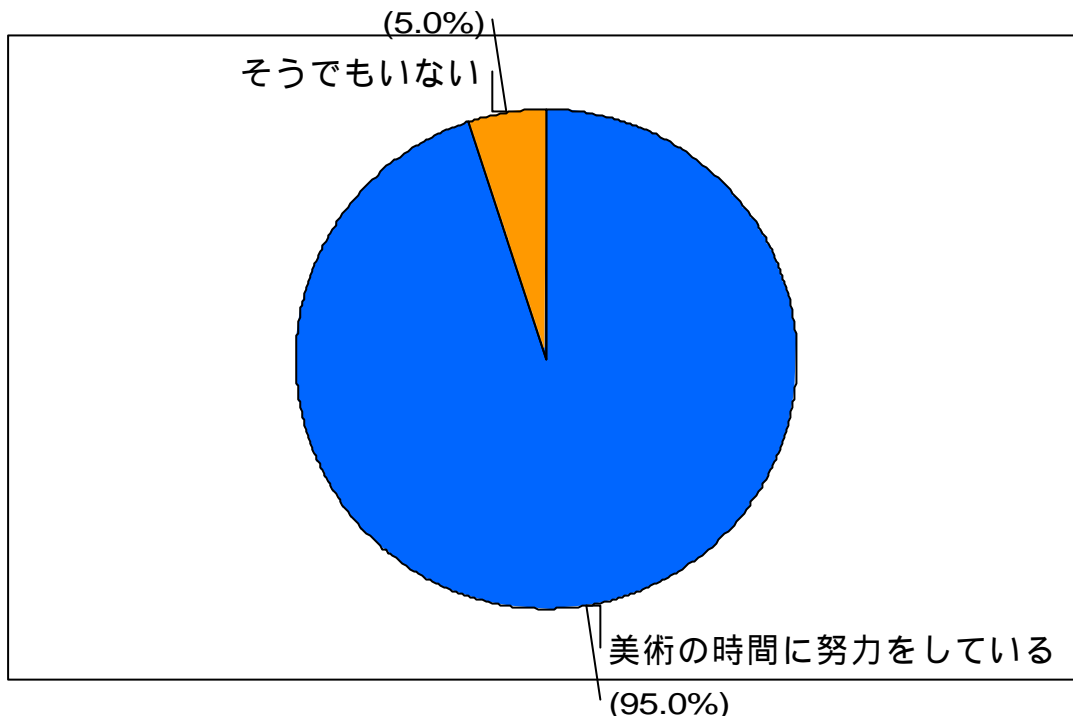
美術の時間が好きですか？



自分の作品に満足していますか？



美術の時間に努力をしていますか？



これらの結果から言えることは……

**だれもが絵を描ける人がうらやましい
と思っている。**

**だれもが絵が描けるようになれたらいいな
という夢をもっている。**

**だれもが教わってうまく描けるようになれ
るのだったら、やりたいという意欲をもっ
ている。**

**苦手意識，嫌いと思わせている原因は，形
の取り方，色出し方という基礎的な技能・
知識の未獲得にある。**

その1

授業の心得

生徒の反応に対しては、鋭敏に応えること

発問が具体的になると、答えも的確になる

教師は、どんな絵を描かせたいのかを明確にしておくこと

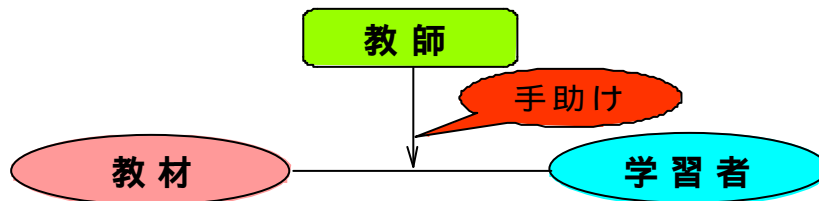
子どもの行動をよく見、子どもの思考過程に合わせて発問をし、説明をしていく

分からせる指導、気付かせる指導

板書を丁寧にしないと的確に伝わらない

その2

教材と学習者と教師の関係を少し考えてみましょう。学習者が教材に働き掛けるように、教師は手助けをする関係ですね。積極的に働き掛けていないようだったら、何故だろうかと考えてみる。教材が不適切だったのか、指導助言が足りなかったのか、方向付けがはっきりしていなかったのかを**評価し、補充したり、フィードバックしたり**しながら、授業に取り組まないといけません。**教師が躊躇したりしていると、学習者は後ずさりします。**



その3

教科の指導でも、それ以前の**生徒とのコミュニケーション**があるのとないのとでは、大きな違いがあります。個別指導の際は、特にこれが大切です。生徒の個性は、大切に育てていかなければなりません。

中学校の教師は、ややもすると教科教育に陥りがちですが、**教育とは、人間教育そのもの**です。その時代に、**未来に生きていかなければならない子どもたちを、どのように教え導き、育てていくか**ということが、教育者の目指す姿でしょう。「先生は知らない」では、済まされません。知らなかったら、**調べてみる、尋ね歩くこと、子どもと一緒に考えて、悩んでやること**が大切でしょう。自分たちは、どんな聖人君子でもないし、哲学者でもないんです

その4

生徒が心を開いてくれるまでは、**教師はじっくり構えないといけません**ね。いろんなきっかけはあるもんですから・・・そこから糸口を見付けて、生徒の中に入り込んでいき、その他のことへも転移させ、指導の場面を多くしていくといいですね。

教師自身がまず、**創造性に富み、向上心に燃えている人間でなければならない**と思います。柔軟な頭がないといけませんね。それには、いつも**謙虚**であり、**人の意見を聞く耳**をもっていないといけません。自分一人だけでは、成長しないし、周りがいて、はじめて洗練され、向上していくものです。

・・・教師の**真の姿**や、**真に言いたいこと**などを洞察する能力が備わってくるようです。だから、**教師がしっかりと教材観**をもって、**技量**ももちあわせていると、生徒は**尊敬のまなざし**で見られるもんです。**ごまかすことはできない**ですね。

